



乳がんについて

- ✓ わが国では女性のがんの中でも罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- ✓ 検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。
- ✓ 検診は2年に1度、定期的に受けて下さい。ただし、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液がでる、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- ✓ 検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
- ✓ 精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせで行います。
- ✓ 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのにそのがんが見つけられない場合もあります。
- ✓ 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。*

※精密検査の結果は市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

がん検診に関するお問合せ先

〇お住まいの市町村窓口にお問合せください

各市町村がん検診お問合せ窓口

令和5年2月現在

市町村名	窓口	電話番号
那覇市	那覇市保健所 健康増進課	098-853-7961
宜野湾市	健康増進課	098-898-5598
石垣市	健康福祉センター	0980-88-0088
浦添市	健康づくり課	098-875-2100
名護市	健康増進課	0980-53-1212
糸満市	健康推進課	098-840-8126
沖縄市	市民健康課	098-939-1212(内線2245)
豊見城市	健康推進課	098-850-0162
うるま市	健康支援課	098-973-4960
宮古島市	健康増進課	0980-73-1978
南城市	健康増進課	098-917-5324
国頭村	福祉課	0980-41-2765
大宜味村	住民福祉課	0980-44-3003
東村	福祉保健課	0980-43-2202
今帰仁村	福祉保健課 保健センター	0980-56-1234
本部町	健康推進課	0980-47-5602
恩納村	健康保険課	098-966-1217
宜野座村	健康福祉課	098-968-3253
金武町	保健福祉課	098-968-5932
伊江村	医療保健課	0980-49-2234
読谷村	健康推進課	098-982-9211
嘉手納町	町民保険課	098-956-1111
北谷町	保健衛生課	098-936-4336
北中城村	健康保険課	098-935-2267
中城村	健康保険課	098-895-2172
西原町	健康保険課	098-911-9163
与那原町	健康保険課	098-945-6633
南風原町	国保年金課	098-889-7381
渡嘉敷村	民生課	098-987-2322
座間味村	住民課	098-896-4045
粟国村	民生課	098-988-2017
渡名喜村	民生課	098-989-2317
南大東村	福祉民生課 保健センター	09802-2-2116
北大東村	福祉衛生課	09802-3-4567
伊平屋村	住民課	0980-46-2142
伊是名村	住民福祉課 保健センター	0980-45-2137
久米島町	福祉課	098-985-7124
八重瀬町	健康保険課 保健センター	098-998-1149
多良間村	住民福祉課	0980-79-2623
竹富町	健康づくり課	0980-82-7519
与那国町	長寿福祉課	0980-87-3575

「乳がん」「がん検診」などのがんの情報についてもっと詳しく知りたい方に、国立がん研究センターのがん情報サービスは、わかりやすく確かな情報をお届けしています。

国立がん研究センター
がん情報サービス

ganjoho.jp



発行：国立がん研究センターがん対策情報センター

がん医療支援部 検診実施管理支援室 2021年4月

協力：厚生労働行政推進調査事業費補助金「検診効果の最大化に資する職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究」班

これから受ける検査のこと

乳がん検診



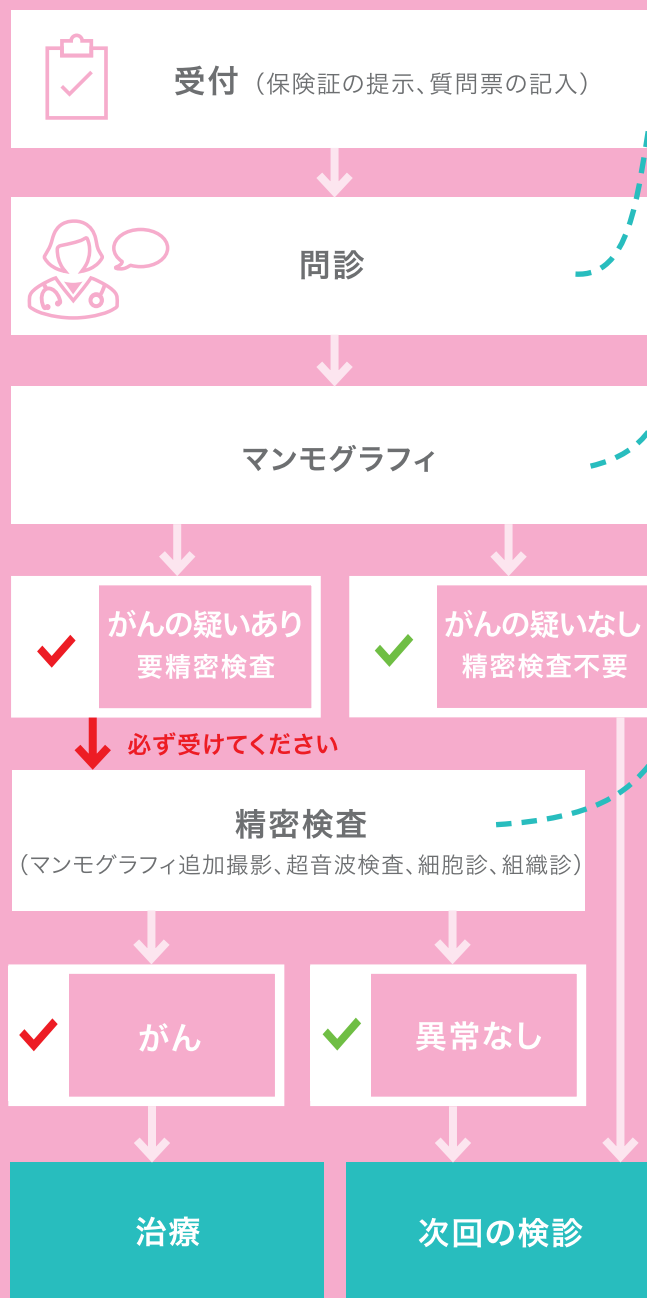
乳がん検診を受ける前に...

乳がんは罹患する人(かかる人)がわが国の女性のがんの中でも多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。自治体で推奨している乳がん検診(マンモグラフィ)は「死亡率を減少させることが科学的に証明された」有効な検診です。早期発見、治療で大切な命を守るために、40歳以上の女性は2年に1度定期的に検診を受診し、「要精密検査」という結果を受け取った場合には必ず精密検査を受けるようにしてください。

すべての検診には「デメリット」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精検」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために、不必要な治療を受けなければならない場合もあります。

しかし、乳がん検診はこれらの低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されているため、必ず定期的に受診してください。

乳がん検診の流れ



気になる症状がある場合

マンモグラフィでは見つけにくい乳がんもあります。早期の乳がんは自覚症状がないことが多いですが、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液が出る、乳頭の湿疹やただれなど気になる症状がある場合は問診の際に医師に必ずお伝えください。症状がある場合は、自治体の乳がん検診を待たず、すぐに乳腺外来のある医療機関を受診してください。

マンモグラフィ

マンモグラフィは小さいしこりや石灰化を見つけることができます。乳房を片方ずつプラスチックの板で挟んで撮影します。乳房が圧迫されるため痛みを感じることもありますが、圧迫時間は数十秒ほどです。また放射線被曝による健康被害はほとんどありません。

- 視触診検査は推奨されていませんが、マンモグラフィとの併用に限り、視触診検査が行われる場合があります。



精密検査について

マンモグラフィ追加撮影

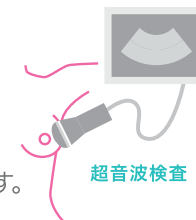
疑わしい部位を多方面から撮影します。

乳房の超音波検査

超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。

細胞診、組織診

疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断します。



検診は40歳以上、2年に1度定期的に受けることが大切です

乳がんの中には急速に進行するがんもあります。早期発見のために必ず2年に1度、定期的に検診を受けてください。推奨している受診年齢や受診間隔を守らないと、検診の「デメリット」が大きくなってしまいます。